

日本ELVリサイクル機構 ニュースレター (ELV Newsletter)

《編集・発行責任者》日本ELVリサイクル機構 広報部会長 永田 則男

一般社団法人 日本ELVリサイクル機構 〒105-0004 東京都港区新橋3丁目2-2 一美ビル5F

Tel:03-3519-5181 Fax:03-3597-5171 メール: jaera-homepage@elv.or.jp URL: http://www.elv.or.jp/

目次

1.巻頭言	1
2.発炎筒処理	1~2
3.ELV便り	2~3
・IREC訪問記	
・企業連携・資源循環(委)	
・常任役員会	
・ELV機構 秋のイベントご案内	
・事務局お願い	
・東北リサイクル部品交流会	
4.スクラップ事情最新情報	4
5.編集後記	4

《巻頭言》

本文記事にもありますが、去る8月25日、「東北リサイクル部品団体交流会」が仙台で行われました。早いもので今回で4回目となったこの会は、ビッグウェーブ、SAP、SPN、NGPといったリサイクル部品流通団体に所属する東北のメンバーが一堂に会する、いわば年に一回の個別団体を超えたお祭りです。

普段はお互いビジネスに鎬を削っている間柄ですが、こうして顔を合わせれば、普段真剣に競い合うライバル同士だからこそ、何のためらいもなく肝胆相照らし酒を酌み交わすことができるのでしょう。

この宴席は大いに盛り上がり、正に至福の一時をもたらしてくれました。こういった情景をみると、無責任な私など、「もつと垣根を取っ払って仲良く流通をやりたいものだ」などと思ってしまう。

今年の交流会は、当日体調を崩した私は無念にも出席できませんでした。後日、仲間にも感想を聞いたところ、「今年も良かった!」という返答ばかりを耳にしました。私は、参加できなかった悔しさを噛みしめながらも、来年も継続して開催される旨を聞いて、ほっと胸をなでおろした次第です。

永田 則男 (広報部会長・山形県)

廃発炎筒の処理システム 誰が・何時 使うのか?

過去にELV機構が会員を対象に行ったアンケート調査では、回答を寄せた機構会員の半数弱が使用済自動車から発炎筒を取り外し、何らかの処理をしていると答えている



専用収納箱 (トライアル)



外すと溜る発炎筒

本誌前号 (Vol.39)で報告したとおり、廃発炎筒の処理システムが具体化してきました。去る8月10日の産構審/中環審自動車リサイクル合同会議(議長:永田 勝也早大教授)に日本保安発炎筒工業会が提案したスキームをベースに、今後、関係者間で実際の運用に関する詳細な議論が開始されることになりました。

Q&Aによって新スキームの概要を解説します。

Q1: 今後、使用済発炎筒の処理は排出者の義務になるのですか?

A1: 義務ではありませんが、一部の破砕業者は、発炎筒搭載車両の破砕時に火災発生の懸念があるとしており、破砕前工程での取り外しを要求しています。発炎筒は火薬類取締法により規制されている物品(玩具花火と同等)のため、一定量以上の保管・運搬に制限があるほか、産業廃棄物として処理する際は一定の基準を満たした最終処分場(通常焼却)で行う必要があり、処理が困難な物品と考えられています。

Q2: 発炎筒を処理する場合、解体工程での取り外しが必要となりますか?

A2: 破砕業者によっては、発炎筒の事前取り外しをガラの引取り条件としていることもあるようです。

Q3: 新しいスキームの概要を教えてください。

A3: 整備・解体段階で取り外された使用済発炎筒を炎筒メーカーが引き取り、適正に処理します。

Q4: 全ての使用済発炎筒が今後、このスキームで処理されることになるのですか?

A4: 使用済発炎筒の処理を行おうとする排出者(整備業者、解

体業者、破砕業者等)は処理方法を自由に選ぶことができます。このスキームを利用するかどうかは排出者の自由意思によります。

Q5: 処理の流れを教えてください。

A5: 解体(整備も同様)段階で取り外した発炎筒を、あらかじめ用意した専用収納箱(100本入りを想定)に詰め、炎筒メーカーが指定する宅配業者を利用して、同じく炎筒メーカーが指定する引取り窓口(全国20か所)経由焼却場(全国17か所)に搬送して処分します。また、排出者自ら指定引き取り窓口へ搬入することも可能です。(事前連絡が必要)

Q6: 発送のタイミングを教えてください。

A6: 特別な施設がなく保管できる発炎筒は約300本(火薬量で25kg)です。排出者は保管量が専用収納箱(100本入り)で3箱に達する前に指定引き取り場所に引き渡す必要があります。

Q7: 処理に要する費用とその負担方法について教えてください。

A7: 排出者が負担する費用として、専用収納箱の購入費(発炎筒メーカーから購入)と指定引き取り窓口までの搬送費が考えられます。専用箱代が500円程度、宅配費用が1200円程度(1箱)で約1700円(100本あたり)の費用が見込まれています。なお、専用収納箱購入時の送料は別途発生する模様です。

Q8: これら費用の負担者は誰ですか?

A8: 整備段階のものは整備業者が負担します。解体段階では、一応、適正処理の受益者である破砕業者が負担者と考えられますが、商慣行等も勘案して、破砕業者と解体業者間で協議し取り決めることになると考えます。

なお、最終処分費用(焼却)は、今後製品価格に内部化された費用で充当されます。

(次ページに続く)

Q9: 新たなスキームはいつから運用される見込みですか？

A9: スキームの運用主体である日本保安炎筒工業会によると、11月の稼働開始に向け最後の調整を行っているとのこと。なお、スキームの詳細につきましては、同工業会ホームページ

<http://safety-flare.jp/> をご覧ください。 □

※事務局より:

本件に関する今後の進展については、ELV機構webサイトなどを通じて速やかに会員の皆様にお伝えします。

ELV 便い ここでは、機構並びに業界の活動状況をとりあげます

IREC自動車リサイクル技術者研修所視察（報告）

去る8月21日(火)、ELV機構常任役員、リサイクル技術部会のメンバーが、ELV機構の会員である石川県の会宝産業(株)を訪問し、同社に併設されている機関であるIREC(International Recycling Education Center)を訪問しました。

<http://www.rum-alliance.com/report/irec/>

IRECは、会宝産業 近藤 典彦社長が代表理事を務めておられるNPO法人RUM アライアンスが運営する研修機関で、内外からの受講者を受け入れて自動車リサイクル技能者の養成を行っています。自動車リサイクル技能者養成コースでは4日間の学科編、2日間の実技編の研修プログラムを開設しており、それらの検定試験の合格者に対して資格認定するものです。平成19年8月に第一回目が開催され、現在までに三十数回開催されたIRECでの養成コースは学科編、実技編合わせて月1回の頻度で開校しており、毎回、自動車リサイクル業界に関わる専門家を招聘して特別講義が行われています。

今回の見学会を企画したELV機構リサイクル技術部会では、

ELV機構による自主的な「自動車解体士(仮称)」認定制度を目指した講習会開催の取り組みを始めようとしており、今後の研修事業において、IRECと連携できる部分について検討を行うため、意見交換を行いました。全国共通の資格認定制度については双方共通の認識を持っていることが確認され、今後継続的に議論して行くことが確認されました。□

IREC活動状況を聞く訪問団一行



企業連携・資源循環委員会

8月23日(木) 13:00～ ELV 機構本部会議室

昨年度、日本ELVリサイクル機構は、環境省の公募に応じて「自動車リサイクル連携高度化事業」の補助金を得て、希少・貴重資源の回収・再資源化実証事業を行い、一定の成果を得ることができました。

昨年度の補助事業推進に際して設置された「企業連携・資源循環委員会」本年度第一回会議が8月23日(木) 13:00よりELV機構本部会議室において開催され、前任の伊丹 伊平氏(副代表理事)の後を受け、東日本資源リサイクル(株) 菊田 裕也社長が新たに委員長に選任されました。

本委員会は、今年度の活動方針として ①「平成24年度自動車リサイクル連携高度化事業」(環境省受託事業)への応募、② 昨年度の本事業の成果を、地域団体による全国講習会のカリキュラムへの盛り込む ③ 昨年度、震災の影響で中止を余儀なくされた企業連携・資源循環セミナーの開催 と決定し、今後の活動を進めることとなりました。

なお、今年度の委員会は、菊田委員長をはじめとし、京葉自動車工業(株) 酒井社長、(株)ホサカ自動車商会 保坂社長、(株)協栄車輛 佐藤社長、(株)オートリサイクル長野 飯田社長、アール・ループ(株) 木内社長、メタルリサイクル(株) 藤原課長、三木資源(株) 三木社長の8名で構成されます。伊丹副代表、多田参与は、アドバイザーとして委員会に参画することになりました。 □ (事務局)

去 る9月11日(火) 13:00よりELV機構本部会議室において平成24年度第3回常任役員会が、河村代表、伊丹、吉川両副代表、金澤ブロック会議長、酒井総務部長並びに事務局参加のもと開催されました。

1) 各種報告事項は以下の通り:

- ・第30回産構審/中環審合同会議報告(8/10)
- ・環境省公募事業応募報告(8/31)
- ・ブロック・地域団体からの報告
関東ブロック会議(10/21)
茨城県自動車リサイクル協同組合全体会議(11/17)

2) 審議案件では、以下各項目が議論されました。

(一部本誌にて紹介)

- ・インストラクター決起集会と会員交流会の開催について(10/28)
- ・リサイクル技術部会による「解体士資格制度(仮称)」の検討について
- ・環境省公募事業への今後の取り組みについて(次号報告)

なお、常任役員会の後半に日本保安炎筒工業会代表より、廃発煙筒回収・処理スキームの進捗状況について報告を受けました。(p.1参照) □ (事務局)

謹告！ 日本ELVリサイクル機構

秋の社員交流会開催決まる。

10月28日(日)午後 詳しくは追ってご連絡

機構事務局よりお願い

ELV機構事務局では、過去に出版された自動車リサイクルに関する資料、書籍等の収集を行うことになりました。体系的に論じられるようになって日の浅い自動車リサイクルに関する資料、書籍類は数も少なく、一般に流通することも余りないため、収

集は容易ではありません。会員の皆様がお手持ちのものでELV機構にご寄贈いただけるものがあれば、是非とも事務局までお送りください。責任を持って保管し、皆様のご活用に応じられるよう管理いたします。 □ (事務局)

ELV便り (続き) ～ELV機構秋のイベントご案内～

ELV機構は、9月11日の常任役員会において、来る10月28日(日)午後、港区新橋の会場において次に上げるイベントを開催することを決定しました。

第一部は「jaeraインストラクター決起集会」です。全国のインストラクターが一堂に会し ①ELV機構本部認定講習会による自動車解体士制度(仮称)の創設を決議する ②インストラクター制度の在り方を確認・決定する、ことを目的に開催されます。

第二部は「会員交流会」です。6月の平成23年度定期社員総会の際に河村代表理事がお約束した、秋には第二回目の開催を実現します。できるだけ大勢の一般会員にご参加いただき、役員ともどもELV機構を取り巻く環境、その進むべき方向、行うべき事業などにつき忌憚ない意見交換をしたいと考えています。

そして、第一部、第二部の参加者全員が参加する懇親会を行います。機構に連なる仲間との絆が更に確固としたものに育っていくことを期待して。□ (機構事務局)

《行政からの情報》

昨今、自宅に押し掛けした事業者に貴金属等を強引に買い取られる被害が急増していることから、新たに訪問購入の規制を盛り込む「特定商取引法」が成立し公布されました。

現行の特定商品取引法には、訪問販売、通信販売、電話勧誘販売他計6種類の取引形態が規定されていますが、それに加え訪問購入が追加されたものです。

当業界に関わることに申せば、使用済み自動車、中古自動車などを、主に一般ユーザーから購入する場合が挙げられます。これら車両購入の現場で、今回の法改正で新たに規制しようとする不当な行為が発生しているとは考えにくいことですが、何かの行き違い等により、意図せぬ法律違反が生じないとも言えないため、以下webサイトを活用するなど、情報の収集に努めてください。□

①消費者庁ニュースリリース

http://www.caa.go.jp/trade/pdf/120831kouhyou_1.pdf

②パブリックコメント募集(このサイトに法案等が掲載されています)

<http://search.e-gov.go.jp/servlet/Public?>

[CLASSNAME=PCMMSTDETAIL&id=235060004&Mode=0](http://search.e-gov.go.jp/servlet/Public?CLASSNAME=PCMMSTDETAIL&id=235060004&Mode=0)

《投稿》

第4回東北リサイクル部品流通団体交流会開催について

先ごろ、今や東北地方の業界恒例行事となった「東北リサイクル部品流通団体交流会」が仙台で開催されました。

この集まりは、東北地方で中古部品の製造・販売を行っている事業者が、既存の部品流通団体の枠を超えて交流するものです。

昨年は3・11の東北大地震のため中止を余儀なくされましたが、去る8月25日に開催された第4回目交流会は、ビッグウェーブがホストとなり、62名もの参加者が集いました。カイトン(株)の畠山社長の司会で、開会宣言に引き続き、東北大震災の犠牲者への黙祷で始まった交流会は、講演会をはじめ、数々の有意義なプログラムが準備されており、最後は、楽しい懇親会が開催され、参加者全員がお互いに親睦を図ることができました。

プログラムの第1部は、仙台市で税理士を営まれる木下氏より講演を頂きました。第2部では、大震災で著しく被災された(株)イマイ自動車・今井社長、(株)シマ商会・島副社長より震災時から復興に至るまでの話をいただきました。両社長とも、今回の震災を通じて、「会社を任されていることに対する先人への感謝」を再認識させられたということでした。

そして第3部。会のメインイベントでもある懇親会では、和やかな雰囲気の中で仲間たちとの絆を深め合い、お互い心を割って話し合う機会が与えられました。□

《投稿》 ～電池について～

新世代自動車やIT機器に欠かせない商品に電池がある。ここで電池というのは、乾電池のように発電のメカニズムが不可逆性の一次電池ではなく、充電することで繰り返し使用できる二次電池のことを言う。現在の二次電池市場を牽引するリチウムイオン電池の生産では、昨年韓国にシェア第一位を譲ったが、新たな電池開発においては、我が国が断然世界をリードしているという。そんな電池も、ミクロレベルでは未だ分からないことも多く、例えば電池の残量を正確に知ることができない。一方、今後進む風力や太陽電池など、再生可能なエネルギーの貯蔵手段として、二次電池が最もフレキシブルだと考えられている。我が国の研究機関では、最先端のリチウムイオン電池の改良はもちろんのこと、更に



写真説明

壇上で開会宣言をする司会の (株)カイトン 畠山社長	講演を熱心に聞き入る参加者。 若手の参加者が多い
講演者の紹介をする本郷氏 (有菅野自動車商会)	税理士の木下氏より「節税対策」の講演を聞く
震災から今日に至る状況を報告 する今井社長 (株)今井自動車	同じく、震災の経験を語る 島 社長 (株)シマ商会

先の研究が進んでおり、従来必要とされたコバルトに代わる物質を使用したリチウムイオン電池や、希少鉱物を使わないナトリウムイオン電池、カルシウムイオン電池、マグネシウムイオン電池などの開発が進んでいるという。 □ (編集委員)

～9月第3週(14日)の鉄スクラップ動向～

国 内鉄スクラップ相場が続落
東京製鉄、全拠点で直近安値割り込む

東京製鉄は13日、全拠点の鉄スクラップ購入価格を1トあたり500円値下げした。これにより全拠点の購入価格(陸海とも)が直近安値を割り込んだ。また、他の国内製鋼各社も同社の動きに対応して購入価格を引き下げる動きが広がり、国内鉄スクラップ相場は続落、各地区とも500円どころの値下がりとなっている。

10～12月期の鉄鉱石、原料炭の契約価格が値下がりする見通しとなり、高炉製品を含む鋼材価格の値下がりが予想される。電炉製品も影響を受けると見られるため、鉄スクラップ相場にも先安見通しが強まっている。このため市中業者筋は手持ち在庫の出荷を進めており、電炉入荷が好転している。

また、輸出市場も下落基調だ。韓国ミルは今週半ばの時点でH2に対しFOB・26,000円を提示するなど、ジリジリと値下がりしている。13日からの日本国内相場下落で、さらに提示価格は下押し見通した。米コンポジット価格も下落しており、内外とも鉄スクラップ相場は値下がり環境となっている。

関 東地区 荷動き活発で弱含み推移

関東地区の鉄スクラップ相場は弱含みの推移を続けている。先安見通しのため市中の荷動きが活発化しており、電炉各社の入荷は使用量見合い、もしくは上回ることもあるという状況だ。現在の関東地区のH2炉前実勢価格は25,000～26,000円中心、高値26,500円見当。H2浜値は24,000～24,500円中心

となっている。また東北では、伊藤製鉄所石巻の炉休実施などで需給が緩いため、余剰分が新潟や関東に流出する動きがある。

東 海地区 3連休前の13日から500円の値下げが一巡

東海地区の鉄スクラップ市況は、3連休突入前の13日から、さらに500円の値下げが一巡した。直近のピーク・8月中旬の価格水準からは2,500円の下落となり、H2炉前実勢価格は25,000～26,000円中心に下押しした。メーカーの夏季減産は過ぎたが、9月以降も回復率は鈍く、スクラップ需給のタイト感低い。業者筋は、スクラップ発生量の低調感からヤード入荷は振るわず在庫は薄い、先行きの不透明感から出荷を進める動きにある。

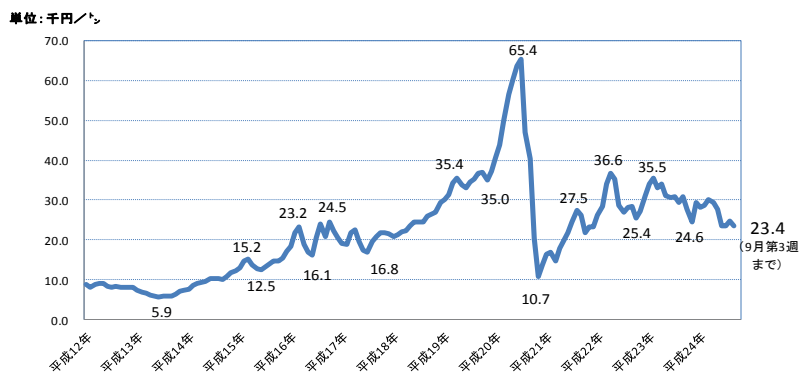
関 西地区 販路の縮小にともない、スクラップ市況は軟調

大阪地区の鉄スクラップ市況は、軟調の展開が続いている。先月末から13日まで、5度にわたる電炉値下げが一巡。H2は既に3,000円がたの下落となり、今年最安値の水準を更新している。品種により入荷制限を行うメーカーが多く見られるなど、販路が縮小傾向にあることも大きく影響している。同地区電炉のH2実勢値は25,000～26,000円。姫路地区のH2炉前実勢価格は25,500～26,000円見当。

【上記価格、数量等は日刊市況通信社調べ、9月14日午前時点のもの】

本記事ならびに下のチャートは、(株)日刊市況通信社から提供されたものです。
(編集委員長)

鉄スクラップ市況(5地区代納平均価格)の推移



9月14日の国内スクラップ炉前実勢価格

		H2	気配
関東	北関東	25,000 ～ 26,000	値下がり
	南関東	25,000 ～ 26,000	値下がり
名古屋		25,000 ～ 26,000	値下がり
関西	大阪	25,000 ～ 26,000	値下がり
	姫路	25,500 ～ 26,000	値下がり



◇ 何時までも暑い暑いと言っている。いられないと思いつつも暑さには一向に衰えはない。そんな中、今朝ほど富士山に今季初冠雪のニュース。季節は確かに移ろっている。と知らされ、何かしらほつとする。

◇ 老人ホーム経営者の団体が、敬老の日に向けて募集した川柳の優秀作品が発表された。何れもユーモア溢れる力作だが、若干自虐的なものが多い。それにしても、我が業界の長老方のお元氣さには舌を巻く。「お辞儀して、共によろけるクラス会」(84歳のご婦人の句である)

◇ 発炎筒の処理に一応の方向性が示された。最終処理費用を内部化し、メーカーや整備業者が負担する仕組みができた。これを評価したい。しかしながら、現状下で全く処理の必要性の無い多くの事業者までが処理を迫られるようなことがあってはいけない。また、所標を行うにしても、費用負担など不明瞭な箇所もある。関係者間で真摯な話し合いの開始が急がれる。

◇ ELV機構新体制発足から約3か月が経過した。次第に新機軸も打ち出され始めている。Japenインストラクターを土台にした専門家の資格制度などもその一つといえよう。秋には、決起集会も開催され、制度の一層の強化が図られる。“継続は力”の具

(編集子)